

令和6年度 授業改善推進プラン (小学校・専科教員用)

福生市立福生第一小学校

音楽科	
<p>児童の実態</p> <p>※必要に応じて学年ごとに記載</p>	<p>○主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動ができる児童が多い。(全学年)</p> <p>○音楽のよさや美しさ、面白さに気付き、様々な音楽に親しむ児童が多い。(全学年)</p> <p>○曲想や楽曲の構造、旋律の様子、歌詞の内容を踏まえて音楽表現を考えられる児童が多い。(歌唱・全学年)</p> <p>○曲想や楽曲の構造、旋律の様子、歌詞の内容を踏まえて音楽表現を考えられる児童が多い。(器楽・全学年)</p> <p>○設定した条件の中で自分の発想を生かして音楽づくりに取り組める児童が多い。(音楽づくり・全学年)</p> <p>○曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く児童が多い。(鑑賞・全学年)</p> <p>①正しい音程で歌うことができない児童もいる。(歌唱・全学年)</p> <p>②自然で無理のない声で歌うことができない児童もいる。(歌唱・全学年)</p> <p>③基礎的な奏法が定着していない児童がいる。(器楽・全学年)</p> <p>④拍を感じながら、互いの音を聴ながら音を合わせて演奏できる児童が少ない。(器楽・低中学年)</p> <p>⑤音色や全体の響きを意識しながら、奏法を工夫して演奏できる児童が少ない。(器楽・中高学年)</p> <p>⑥曲想と音楽の構造との関わりに気付き鑑賞できる児童が少ない。(全学年)</p>
<p>児童の実態を踏まえた授業改善の取組</p> <p>※必要に応じて学年ごとに記載</p>	<p>①常時活動を利用し、ア・カペラや、移動ト唱で耳を育てていく。</p> <p>②今月の歌の時間で、発声練習を反復して行い定着を図る。</p> <p>③器楽学習の前に毎時間基礎的・基本的な奏法を復習する時間を設定して定着を図る。</p> <p>④範奏や範唱を聴く活動で拍を刻む活動を設定して拍感を高める。児童の練習中は、メトロノームを常に鳴らし、拍を意識しながら演奏できるようにする。また、友達の演奏を聴きながら心の中で歌う学習や小さい音量で合奏する学習を各題材で設定し、互いの音を聴きながら音を合わせて演奏する力を高める。</p> <p>⑤曲想や声部の役割に気付く学習を各題材に位置付け、音色や音量、他声部とのバランスを意識して演奏しようとする思いや意図を高める。</p> <p>⑥曲想を表す言葉の例と音楽の構造を説明する言葉の例を提示し、知覚と感受のつながりに気付けるようにする。</p>